

同人三男 千葉右馬之助

此縫殿右衛門大三郎儀、逆心ケ間敷巧事致シ候儀ハ無之候得共、一分之樂に可致と、縫殿右衛門は大炊助、大三郎は左兵衛佐、大内藏は駿河守、右馬之助は千葉上總介、又は能登守と官名を附、系圖之末江、縫殿右衛門書記置、大三郎儀は、右體之儀を差留不申、不屈至極に付、兩人共に遠島、大内藏、右馬之助儀は、若年故、何に而も巧事之咄承候儀無之由申候得共、兩人共に官名を附、系圖に記置可申由、縫殿右衛門申聞候處、若年とは乍申不差留、縫殿右衛門に任せ置候段不埒に付、本多左京江、相渡、徘徊不仕様に可申付哉と相伺、其通被仰渡候事、

〔市中取締類集九ノ九十〕午五〇文政 五月十四日伊勢守殿御直御渡略○中

一此度、先祖書調ニ付、追々被仰出候通、萬石以上以下、御目見以上之面々、先祖書取調罷在候處、燒失又は書繼モ不致等閑打捨置書留も無之、不相分當惑致候者モ有之候由然る處、牛込拂方町ニ罷在候浪人田畑喜右衛門ト申もの、諸家系譜之儀、委敷鍛鍊致し、右喜右衛門へ、追々手寄候而、家譜穿鑿爲取調、喜右衛門儀ハ、都而書上之認振迄も心得罷在、右故、萬石以上以下共、家譜取調申付候者不少、仲ニハ清書ヲモ申付候者モ有之由ニ而、弟子共四五人モ有之、取調出來之上ハ、過分之價ヲ貪、其外筆耕料頼ミ、身分ニ寄、格外之直段ニ而、夫々取調遣候由之事、

〔市中取締類集九ノ九十〕被仰付候風聞書

隱密廻リ略○中

牛込拂方町利八店浪人田畑喜右衛門小野一郎 四十五位(中略)

一右喜右衛門義ハ、幼年之節ヨリ、系譜之義ヲ相好、儒業モ相應ニ出來致し候哉、文政六巳年中同人編集之書籍、學問所へ留置候由ニ而、松平伊豆守殿御差圖ヲ以、銀拾枚頂戴仕候儀モ有之由、一體喜右衛門儀、困窮モノニ付、諸家ヨリ被相頼、系譜調遣し、謝禮受右ニ而、暮方致し罷在候由、同人